



不易の原点を探り求める姿勢

九州個別化教育研究会会長 三原 英雄

教育界には、その時々の教育思潮を敏感に反映して、一つの流行といったものがあるように思います。これをキーワードで整理してみると、教育の変化といったものが読みとれます。学習過程・教材構造・創造性・主体性・基礎基本・内容の精選・目標分析といったものがそうです。

これらは、それぞれの時代には、新しい教育の先導的な役目を果たすものとして広く研究され、実践の場で活用されてきました。しかし、華々しく登場したわりには、教育界への定着は悪く、泡沫のように消えてしまったものもあります。

私自身の経験でも、教材構造がもてはやされた時代には、びっくりするほどの構造図を書き、討議を深めた経験を思い出します。教材をどう解釈し、その教材をどういう構造図にまとめるか、その場合の中核にすえるキーワードは何にするか、どう関連を示す線引きをするかなど随分苦労したものです。

個別化・個性化教育も、こうした一時の流行として終わってしまう危険性がないとはいえません。個に徹する個を生かすということは、教育の鉄則です。不滅の原理です。全個教連設立の主旨を常に高く掲げつつ永遠の灯として守り育てたいものです。

そのためには、全個教連として、また、会員としてその目的遂行のために鋭意努力すべきです。次に不易の原点を探り求めるいくつかの視点を提言したいと思います。

1. 一人ひとりを大切にすることの思潮をわかりやすく提言していくこと
2. 会員の一人ひとりが、日々の授業実践を通して、個別化・個性化のあり方を実践的に示していくこと
3. 学校間・会員間の相互交流をより一層深め、討議の輪を大きくしていくこと
4. 会員の一人ひとりが、自らの人間観・教育観・指導観を確立するため、厳しい自己研鑽を図ること
5. 学習材(ソフト)の開発に創意をはたらかせ、たやすく交換できる組織づくりをすること

一人ひとりの個性の開発に関する関心は非常に高いといえます。また、一斉画一授業の改善に対する意欲も旺盛です。どうこれを組織的な活動としてまとめていくかの必要性を感じています。全個教連を中心としたそれぞれの機関の活動に期待したいと思います。

九個研では、事務局を中心としてこうしたことの実現に向けて衆知を集めています。本年度末に発刊を予定している研究集録には、これらのことをふまえた実践記録をふんだんに収録したいと考えています。

個別化・個性化教育を一時の流行に終わらせないためには、会員の一人ひとりが先に述べた視点をもとに、日常の実践を大切にしながら、不易の原点を探り求めていく努力をすべきであると考えます。

(福岡県春日市教育長)

研究発表会のご案内

全個教連にゆかりの深い学校で、研究発表会が行われます。

1	期 日 昭和61年10月28日(火) 会 場 金沢小学校(東京)電話03-962-2361
2	期 日 昭和61年10月31日(金)・11月1日(土) 会 場 池田小学校(岐阜)電話0585-45-2681 全国個別化教育研究連盟総会開催
3	期 日 昭和61年11月18日(火) 会 場 初倉南小学校(静岡)電話05473-8-3711
4	期 日 昭和61年11月28日(金) 会 場 卯ノ里小学校(愛知)電話0562-34-7997
5	期 日 昭和62年2月10日(火) 会 場 緒川小学校(愛知)電話05628-3-2034
6	期 日 昭和62年2月12日(木) 会 場 宮前小学校(東京)電話03-718-5506

東では 全個教連主催 第2回夏季研究会

期日 昭和61年8月1・2日
会場 東京板橋区相談所

研修会参加者は酷暑の中を全国各地から

研修会の参加者は、地理的に恵まれた東京勢35名、遠方の大阪・岩手・富山・岐阜・福島、関東の群馬・栃木・茨城・埼玉・千葉・神奈川の各県からも多数参加し個別化教育の輪の拡大と共に研修の深化が図られつつあるとの感を強くいたしました。

研修会日程

第1日(8月1日)

1. 個別化・個性化教育のあり方

- (1) 開会のことば 松崎二葉事務局長
(2) 会長あいさつ 染田屋謙相会長
(3) 個人差に応じた学習指導

板橋区立志村第二小学校長 上山英昭先生

- (4) 個別化・個性化教育について 加藤幸次先生

2. 個別化・個性化教育の実践

- (1) 「オープンスペース」を活用して
東浦町立緒川小学校教諭 成田幸夫先生

- (2) 「空き教室」を活用して
国研 研修生 松田早苗先生

- (3) 「普通教室」を活用して
町田市立小山小学校教諭 川島良代先生

- (4) 「学習環境づくり」を通して
板橋区立金沢小学校教諭 青木治人先生

- (5) 業務連絡

第2日(8月2日)

個別化・個性化教育のための教材づくり

——「学習手引き」づくりの実際——

1. 「学習手引き」づくりについて 加藤幸次先生

2. グループ研修

- (1) 手引き作成基礎コース
指導・助言 加藤幸次先生

- (2) 手引き作成実践コース
指導・助言

東浦町立森岡小学校教頭 安藤 慧先生

東浦町立緒川小学校教諭 成田幸夫先生

柏市立旭東小学校教諭 松田早苗先生

町田市立小山小学校教諭 川島良代先生

3. 閉会のことば 松崎二葉事務局長

会員の意欲が研修会を盛りあげる

たいへん遠方からのご参加にもかかわらず開会時刻前にお集りくださる方もあり熱意に感銘しました。



松崎事務局長の開会のことばは、第2回夏季研修会の運営全般についての説明と、運営を分担している事務局員の紹介がありました。

染田屋会長は、あいさつで次の点を強調されました。

- ① 研修の成果を持ち帰り学校で実践していただきたい。
- ② 臨教審の第二次答申で個人の尊厳・個性の尊重・自主性の涵養ということが述べられているが本会の趣旨から考えて喜ばしいことである。個別化・個性化教育を推進し、画一的な教育から抜け出すことが大切である。
- ③ 学習材をどのようにつくっていくかが、個別化・個性化教育の発展に重要な意味をもっている。

講義・発表・学習材づくり

加藤副会長からは、全国的な動きをふまえて、個別化・個性化教育についての講義がありました。上山研修部長からは、個人差に応じた指導について、戦後の教育史をふまえた講義がありました。4名の先生方から実践報告があり、それぞれの学校で創意・工夫をこらした実践の紹介がありました。

学習の手引きコースは、昨年度の反省と研究の積み重ねをふまえ、4グループに分かれ研修生の個に応じた指導・助言をいただきました。

参加者の声

「昨年は無我夢中で研修会に参加しました。それを実践していくなかで、自分なりのものをつかみ、発表もできるようになりました」新設校なので、校長以下5名で参加しました。この研修で修得したものを2学期に実践したいと思います」初めて参加しましたが、研修会のふん囲気がよく気軽にとびこめて研修ができ、実のりがあつた」等々の率直な意見を聞くことができました。

(編集部副部長 渡辺 欽一)

第2回九個研研究大会

期日 昭和61年8月22日

西では

会場 福岡市教育センター

「個別化教育は教育活性化の主役となりうるか」という大会テーマのもとに、第2回九州個別化教育研究会研究大会が、8月22日(金)福岡市教育センターで開催されました。

研究大会には、離島の沖縄県や長崎県の対馬からも参加をいただき、九州各県より150名を超える参加者の中で盛会裡に終了することができました。

大会当日は、最初に全体会を行い、次いで実践発表と質疑及び意見交換、さらに講演、情報交換会を行い幕を閉じました。

全体会では、九個研の設立の経過と今後の事業計画の構想が提案されました。続いて基調提案が行われ、教育の今日的課題と個別化教育の果たすべき役割について指針が示されました。

次いで、実践発表に移り次の4校より発表が行われました。

自分の目標をもって挑戦する子を育てる個別化教育

—オープンスペース利用学習を通して—

沖縄県具志川市立兼原小学校教諭 知花 晃

オープンスペースを活用した算教科指導の

個別化・多様化

鹿児島県加世田市立加世田小学校教諭 石黒直洋

子どもが生き生きと学習に取り組み指導法の研究

—個別化を取り入れた授業のあり方—

佐賀県山内町立山内西小学校教諭 早田幸徳

学習の個性化をめざしたチャレンジタイムの実践

福岡県久山町立久原小学校教諭 池田信一

発表は、各学校とも最初に、オープンスペースを取り入れた校舎や施設を利用した個別化の授業実践の様子をVTRやスライドで紹介をしながら、個別化教育の実践について発表がなされました。インチの大型のビデオ画面やスクリーンに写し出された校舎や子どもの学習の姿は、参加された先生方に大きな感銘を与えました。特に、オープンスペースをもつ校舎を建築中という学校の先生からは大変参考になったという声が聞かれました。

発表後、質疑及び意見交換が行われ熱心な討議がなされました。討議の中では、個別化教育についての校内の共通理解のはかり方の問題や学習材の作り方について、時間の確保やどのような方法で行えばよいかといった問題が出されました。また、高等学校の先生からは、高等学校において個別化教育を取り入れるとした場合にどんな方法が考えられるかという問題も出されました。さら



に、今後、九個研が全国の個別化教育実践校の諸資料を収集して、九州における個別化教育の情報センターとして各学校に供する役割を求める意見も出されました。

続いて、研究大会の研究テーマでもある「個別化教育は教育活性化の主役となりうるか」という演題で、国立教育研究所室長の加藤幸次先生の講演が行われました。講演の中で、加藤幸次先生は、教育活性化の今日的な要件をあげられ、個別化教育が教育の課題に果たす重要性について述べられ、合わせて、意見交換の中で出された個別化教育実践上の課題についての方策を示していただきました。

日程と並行して、受付ロビーでは、個別化教育実践上の課題を中心とする相談コーナーが開設され、加藤幸次先生や九個研の事務局員が相談に応じました。また、個別化教育実践校における学習材や研究紀要等の諸資料も展示し、実践上の参考にしていただきました。

最後の情報交換会は、加藤先生を囲んで、沖縄県や鹿児島県の先生方も参加して30名ほどで行われました。この会では、実践上の悩みや九個研の役割について膝を突き合わせての意見交換が行われました。また、今後の九個研の研究大会の開催を各県まわしに出来るような体制を各県の中で作っていくために、全個教連や東海研との連携を密にし、九州における個別化教育の充実・普及と会員の拡大をはかり九個研の発展をめざすことを申し合わせて会を閉じました。

九個研が発足してのわずか5カ月を経過しての2回目の研究大会でしたが、1回目の5倍(1回目は33名)の参加を得たことは、会の存在価値が広く認識され、さらに実践の輪が広まっていくもほと喜んでいきます。

(九州個別化教育研究会事務局幹事 田中 普)

事務局だより

事務局長 松崎 二葉

お彼岸のお中日に、この稿の筆を執っています。全国の同志の皆様、お元気でのお励みのことと思います。この会の一層の発展を願いつつ、お知らせをします。

事務局会を

7月25日午後2時より、東京都板橋区立金沢小学校において、事務局会を開きました。

8月1日・2日に予定している夏季研修会について審議するのが、主たる目的でした。加藤幸次副会長のご指導をいただきながら、役割分担等について成案を得ました。

暑い中、ありがとうございました。

係	担当者		
総務	松崎 二葉	新井 久	
庶務	佐藤 武男	奥田 実	
受付	新田 豊作	橋本 治典	
会計	松山 雄一・唐木 進	新妻 則子	
会場	新井 久・新田 豊作	橋本 治典	
接待	大谷 清子	唐木 進	
	渡辺 茂		
記録	上山 英昭	斉藤富美子	
司会・進行	上山 英昭	木下 靖正	
編集・取材	倉上 保	笠原 春雄	
	渡辺 欽一	梅川 三郎	
	渡辺 茂	三谷 恭平	

開きました。

夏季研修会を

昭和61年度の夏季研修会は、盛況裡に終了いたしました。板橋区外からの参加者を敬称略順不同で紹介いたします。山口 洋一 島 洋一 竹沢 汎海 里見 立夫 石田 薫 飯塚 徳政 酒井 幸生 近藤めぐみ 西尾千鶴子 村中 忠 曾我 節子 加藤 勇 渋谷 久 西河内ひとみ 村野 坂本 辰三 川島 良代 森田 倫正 矢沢 武志 岩佐 富雄 東原 瑞香 酒井八重子 外山 文 丸山 和秀 川瀬 明子 中西 憲次 久保寺克明 塚原久美子 嶋田 秀樹 小川 智 永井タケ子 渡辺 雅子 門倉 和男 笠原 久枝 飯田 信男 須古 勇輔 市村 敏幸 小林 昭彦 狩原 秀行 熊谷 一之 山元 泰正 江連 富夫 江島 紘

終わりました。

年会費について、ふたたび

すでにご承知のように、本会は、会員の会費によって運営されております。特別の補助金も、寄付金も頂戴していません。

事務局の方々にも、ほとんど手弁当での奉仕活動をお願いしております。今後の活動をよりいっそうさかんにするためにも、一人でも多くの方にご入会

いただき、ご面倒でも年会費のご納入をお願いするさせていただきます。

61年度の年会費をご納入いただいた方々のうち当事務局扱い分は、61. 9. 15現在で次のとおりです。謝意を込めてご紹介いたします。

なお、東海地区と九州地区の方々については、次号でご紹介いたします。それぞれの事務局を通じて、一括納入される予定であるからです。

団体会員

- 帯広市立広陽小学校
- 麻布台教育研究所
- 最上町立富沢小学校
- 立川ブラインド工業株式会社

個人会員

- | | | | |
|-----|-------|-----|--------|
| 北海道 | 村田順之助 | 福 島 | 武藤 義男 |
| 秋 田 | 二階堂邦文 | | 野村 裕子 |
| 茨 城 | 外山 文 | 東 京 | 新田 哲郎 |
| 宮 城 | 近江 紀夫 | | 横田 杉男 |
| | 岡田 永沼 | | 島田 広 |
| 富 山 | 田中 講一 | | 秋間 政 |
| | 杉森富美吉 | | 松山 雄一 |
| | 里見 良子 | | 斉藤富美子 |
| | 中町 清治 | | 木村 広子 |
| | 柴垣 光郎 | | 増田 和彦 |
| | 三田市直司 | | 松崎 二葉 |
| | 天池 芳明 | | 山本 正志 |
| 岡 山 | 山神 勝 | | 渡辺 欽一 |
| 佐 賀 | 光武 充雄 | | 塚越 昭 |
| 愛 知 | 水谷 昌代 | | 嶋根 欣一 |
| 山 形 | 松葉 英一 | | 木下 靖正 |
| 群 馬 | 里見 立見 | | 坂田 鳩 |
| 新 潟 | 市村 敏幸 | | 新井 久 |
| | 中村 雅胤 | | 佐藤 武男 |
| 東 京 | 吉村 雅道 | 千 葉 | 尾形美智子 |
| | 唐木 進 | | 西河内ひとみ |
| | 若松 一雄 | | 飯塚 徳政 |
| | 岸 俊彦 | 京 都 | 脇 勝征 |
| | 亀田 佳子 | 静 岡 | 渡辺 芳江 |
| | 小林 昭彦 | 大 阪 | 平野 兎代 |
| | 望月 桂二 | 徳 島 | 山田 進 |
| | 吉岡 靖夫 | 香 川 | 久利 文男 |
| | 永井タケ子 | 兵 庫 | 藤原 淳作 |
| | 田村 恵 | 埼 玉 | 加藤 勇 |
| | 渋谷 久 | 千 葉 | 松田 早苗 |
| 神奈川 | 川島 良代 | | 並木 久栄 |
| | 松波 巖 | | 関 厚 |
| 埼 玉 | 嶋野 義智 | | 長谷川好子 |

理事会と総会 61. 11. 1

岐阜・池田小で

池田小のご好意で、同校研究発表会の日に開くことになりました。ご通知いたします。